

CASBEE京都-新築(2015年版)

(仮称) 藤本町共同住宅 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階													
配慮項目		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分				全体			
						評価点	重み係数	評価点	重み係数						
Q 建築物の環境品質												2.9			
Q1 室内環境							0.40		-			3.1			
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00			3.4			
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50						
1.2 遮音						5.0	0.50	3.6	0.50						
1 開口部遮音性能					開口部遮音性能:T2	5.0	1.00	5.0	0.30						
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	0.30						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20						
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-						
2 温熱環境						2.6	0.35	2.6	1.00			2.6			
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50						
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63						
2 外皮性能						3.0	0.38	3.0	0.38						
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-						
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20						
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30						
3 光・視環境						2.3	0.25	3.6	1.00			3.2			
3.1 昼光利用						1.8	0.30	4.0	0.30						
1 昼光率		●自然	A(全国版準用)	部屋に対して大きく開口を取っている		1.0	0.60	5.0	0.50						
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30						
3 昼光利用設備		●自然	B(推奨内容)			3.0	0.40	3.0	0.20						
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.30						
1 昼光制御		●自然	B(推奨内容)	住居部:カーテンレールの設置・庇		2.0	1.00	4.0	1.00						
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15						
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25						
4 空気質環境						3.2	0.25	3.6	1.00			3.5			
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63						
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の建材の使用		4.0	1.00	4.0	1.00						
2 アスベスト対策						-	-	-	-						
4.2 換気						2.0	0.40	3.0	0.38						
1 換気量						1.0	0.50	3.0	0.33						
2 自然換気性能		●自然	A(全国版準用)			3.0	-	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33						
4.3 運用管理						-	-	-	-						
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-						
2 喫煙の制御						3.0	-	-	-						
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-			2.9			
1 機能性						2.2	0.40	3.2	1.00			2.9			
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	4.0	0.60						
1 広さ・収納性				各住戸で100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能予定		3.0	-	3.0	-						
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	4.0	1.00						
3 バリアフリー計画		●大切	D(独自基準)			3.0	1.00	-	-						
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40						
1 広さ感・景観		●とも	C(独自加点)			3.0	-	3.0	0.50						
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-						
3 内装計画		●自然	D(独自基準)			1.0	1.00	1.0	0.50						
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-						
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-						
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-						
3 衛生管理業務						-	-	-	-						
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-			3.2			
2.1 耐震・免震						3.0	0.50	-	-						
1 耐震性						3.0	0.80	-	-						
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-						
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30	-	-						
1 躯体材料の耐用年数		●大切	A(全国版準用)	劣化対策等級2を取得予定		4.0	0.20	-	-						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				磁器質タイル貼		5.0	0.20	-	-						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				内壁・天井にビニルクロスを使用		4.0	0.10	-	-						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				主要な用途上位2種類以上にC以上を使用		4.0	0.20	-	-						
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-						

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			2.8	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備			2.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.7	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり						-	2.4	0.50	
1 階高のゆとり					3.0	-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出					1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮					4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化					3.6	0.50	-	-	3.6
集合住宅以外の評価(3a.3b)					1.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)					3.6	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.70	-	-	
1 消火剤					2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動					3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる